

(2) 伸び悩む町内宿泊者数

新幹線開業で東京が日帰り圏になり、思っていたほどの増には結びついていない。

(3) 町営駐車場の定期利用の減少

並行する I G R いわて銀河鉄道の乗客にも利用されており、利用台数は増加傾向にあるものの、月極駐車台数は減少傾向にある。

平成29年10月19日（木）視察先：青森県東津軽郡今別町

○視察内容

1. 奥津軽いまべつ駅周辺整備事業

昭和63年3月13日に津軽海峡線が開業した際に「津軽今別駅」が設置されたが、待合室が狭いことや観光地のPRや観光案内の拠点が無いということから、平成8年に総事業費約2億円で「半島プラザアスクル」を建設。また、北海道新幹線開業に向けて平成26年に総事業費約1億円で物産販売、レストラン、トイレの拡大、観光・道路情報コーナーを新たに整備している。

リニューアル後、売上・入込客数ともに増加し、新幹線駅効果のみだけではなく、道の駅での買い物や食事を目的とした来場者が増加している。

2. 新幹線開通による効果

道の駅内にレンタカー営業所を誘致している。レンタカーの利用はほぼ毎日あり、津軽半島周遊観光などの観光拠点として潜在的な需要を掘り起こしている。

新幹線乗降者数は1日平均で平成28年度は約120人、平成29年度は約100人となっているが、広域人口からすると決して少なくないのではないかと分析しているようである。

3. 今後の課題等について

奥津軽への観光客誘致と二次交通の促進を図るとともに観光モデルコースや時間等の設定が必要となっている。

また、町内に宿泊施設が不足していることから、地方創生拠点整備事業により合宿、修学旅行のほか一般観光客も宿泊可能な体育施設を総事業費約7億円で建設中である。



駐車場奥に見える道の駅「アスクル」

【まとめ】

いわて沼宮内駅、奥津軽今別駅の周辺事業について視察調査し、そのほかに以前視察した新幹線駅も含め自主研修してきたが、新幹線駅や駅周辺整備事業のほか、開業後の現状や課題も含め調査することができた。今回の視察調査で得た成果を、わが町の新幹線駅及び駅周辺整備事業計画などに生かしていきたい。

行政・議会そして町民がそれぞれの立場で協力し合い、新幹線を核としたまちづくりに向けて、まち全体が一丸となって邁進することが肝要である。そのため本特別委員会としてもさらなる調査・研究に取り組んで参りたい。

新幹線駅周辺整備事業視察調査報告書

～まちづくり・新幹線調査特別委員会～

平成29年10月17日（火）～19日（木）、本特別委員会にて岩手県岩手郡岩手町、青森県東津軽郡今別町を訪れ、新幹線駅周辺整備事業について視察調査を実施いたしました。

第4回定例会において報告した内容を、紙面の都合上一部抜粋して掲載いたします。

平成29年10月18日（水）視察先：岩手県岩手郡岩手町

○視察内容

1. いわて沼宮内駅周辺整備事業

東北新幹線いわて沼宮内駅の開業に合わせ、多目的集会施設を併設した鉄骨造3階建の「岩手広域交流センター・プラザあい」を総工費約10.7億円で建設した。

さまざまなイベントが開催できる多目的ホールや、人数に合わせて選べる会議室、広域物産コーナー、広域観光コーナー、総合案内、レンタカーコーナーなどを備え、人が集う交流拠点として活用されている。

また、町営駐車場として、西口南駐車場38台、西口北駐車場96台、東口正面駐車場83台、計217台分を整備しており、料金は2時間まで無料、月極料金は西口北が3,600円、東口正面が4,100円となっており、その他に、東口にイベント時等の臨時駐車場として40台分を整備している。



岩手広域交流センター「プラザあい」

2. まちづくりの取り組み

駅周辺整備に合わせて、新幹線駅、道の駅、街の駅、川の駅からなる「4つの駅構想」に基づき、「交流と連携」をキーワードとした地域地盤づくりを進めており、相乗効果によるまちの活力促進を図り、交流人口60万人を目指している。



道の駅「石神の丘」

3. 新幹線開業による課題

（1）並行在来線問題

経営分離に伴う鉄道運賃について、県南（JR）と県北（IGRいわて銀河鉄道）の運賃格差が生じており不均衡是正は開業後から問題視されている。

鉄道ダイヤについては、JRに比べ本数増加等により利便性が向上されているものの、いわて沼宮内～盛岡間は並行するバス路線の運賃が低額であることから、鉄道利用からバス利用に移行する利用客が多くなっている。